

自己点検・自己評価表（令和6年度）

1. 学校の教育目標

本学園の建学の精神である「私たちの学ぶ技術は、芸術であり、科学であり、職業でもある」を基盤にして「心ある、そして考える医療人を育てる」という教育理念のもと、学生一人ひとりの個性を大切に、対象となる人々に寄り添い相手を慮る（おもんばかり）心を育み、また、常に多角的な視点から思慮深く考え、共創の心をもって医療を実践できる能力を育てる。

目標を達成するために、生命の尊厳と個々の人格の尊重を基盤とした豊かな感性と幅広い教養を身に付けた「人間性の教育」、理論的思考・深い洞察力と判断力により、主体的・創造的に医療を実践できる「専門性の教育」、地域の保健ニーズを理解し、保健医療福祉チームの一員として、組織的に支援できる「社会性の教育」、学問への探求心とその向上・発展に貢献できる「向上性の教育」に注力し教育を実践する。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

1. 変革期における学園組織改革の推進

- 1) 財務基盤改善のための組織改革と業務の見直し
 - (1) 学科再編（定員変更）や教育内容の見直し
 - (2) システム導入による業務効率化
 - (3) 組織改革による目標達成に向けた運営強化
 - (4) 全学体制での入学定員充足
 - (5) 全学体制での退学者の低減
 - (6) 全学体制での計画に基づく経費削減
- 2) ガバナンス体制の強化
 - (1) 理事会・評議員会および法人本部の連携強化
 - (2) コンプライアンスの遵守
 - (3) ハラスメントのない職場

2. 学生の心理的安全性の確保

- 1) 教員の教育力（教授力）向上、教職員の対応力向上
- 2) 学生支援体制の強化（学生相談、学修支援、経済的支援など）
- 3) 災害、感染症等に対応できる体制構築

3. 評価項目の達成、取り組み状況

1. 教育理念・目的・育成人材像

評価項目	4: 適切 やや不適切	3: ほぼ適切	2:	1: 不適切
理念・目的・育成人材像は定められているか。	④	3	2	1
育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	4	③	2	1
理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	4	③	2	1
社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	4	③	2	1

① 課 題

- ・ 中長期計画を教職員に周知しているが、保護者や関連業界に周知できていない。
- ・ 学生募集が厳しい状況で、理念・育成人材像、教育活動が社会のニーズに沿っているか見直しが必要。

② 今後の改善方策

- ・ ホームページや学校案内、保護者会を通して、学校の中長期計画を周知していく必要がある。

③ 特記事項

- ・ 事業計画書を学内ポータルサイトに掲載している。

2. 学校運営

評価項目	4: 適切	3: ほぼ適切	2: やや不適切	1: 不適切
理念に沿った運営方針を定めているか	4	③	2	1
理念等を達成するための事業計画を定めているか	④	3	2	1
設置法人の組織運営を適切に行っているか	④	3	2	1
学校運営のための組織を整備しているか	④	3	2	1
人事・給与に関する制度を整備しているか	4	③	2	1
意思決定システムを整備しているか	④	3	2	1
情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	④	3	2	1

① 課題

- ・新年度会にて理事長より運営方針を示しているが、教職員への浸透度は把握できていない。

② 今後の改善方策

- ・学校全体の情報システム化を図り、効率的かつ安全な管理体制を進める必要がある。
- ・令和7年度の私立学校法の改正により理事・評議員の定数改正に伴い、寄付行為変更を行う。

③ 特記事項

- ・法人の学校長会議を毎週実施した。
- ・法人の広報会議を毎週実施した。
- ・勤怠管理システム ジョブカンを試験的に導入した。次年度より本格的に導入する。
- ・運営方針の進捗状況を適宜、理事長より教職員への説明会を実施した。また動画を学内ポータルサイトに掲載した。

3. 教育活動

評価項目	4: 適切	3: ほぼ適切	2: やや不適切	1: 不適切
理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	④	3	2	1
学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	④	3	2	1
教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	④	3	2	1
教育課程について、外部の意見を反映しているか	4	③	2	1
キャリア教育を実施しているか	④	3	2	1
授業評価を実施しているか	④	3	2	1
成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	④	3	2	1
目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	④	3	2	1
資格・免許取得の指導体制はあるか	④	3	2	1
資格・要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
教員の資質向上への取組みを行っているか	4	③	2	1
教員の組織体制を整備しているか	4	③	2	1

① 課 題

- ・教員の育成目標および育成計画が明確になっていない。
- ・教員の研修や講習は個人に任せている面が大きい。
- ・授業評価アンケートを実施しているが、結果を授業改善に活用できていない。

② 今後の改善方策

- ・教員の育成計画を明確に示す。
- ・授業評価アンケートの結果を学科内で共有し、授業改善に取り組む。

③ 特記事項

- ・リハビリテーション学科において、一般社団法人リハビリテーション教育評価機構の受審を受け、評価認定施設（適合校）との結果を受けた。

4. 学修成果

評価項目	4: 適切 やや不適切	3: ほぼ適切	2: 不適切	1: 不適切
就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
資格・免許の取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
卒業生の社会的評価を把握しているか	4	③	2	1

① 課 題

- ・ 卒業生就職先アンケートが実施できていない。
- ・ 全ての卒業生の動向を把握できていない。

② 今後の改善方策

- ・ 卒業生の追跡調査を実施する。
- ・ 卒業生の動向について、卒業生や就職先にアンケートを実施していく。
- ・ 教務と学生事務課で学生の就職活動を情報共有していく。

③ 特記事項

- ・ 東洋医療総合学科では、企業を一堂に会して就職ガイダンスを実施した
 - ・ リハビリテーション学科では、随時施設の方をお招きして就職ガイダンスを実施した。
 - ・ 看護学科では、1年次から学内で就職ガイダンスを実施している。
 - ・ 国家試験の合格率は、看護学科 93.8%、リハビリテーション学科 96.2%、東洋医療総合学科 1 部 あん摩マッサージ指圧師 100%、はり師 96.4%、きゅう師 96.4%、東洋医療総合学科 2 部 あん摩マッサージ指圧師 91.7%、はり師 91.7%、きゅう師 91.7%、看護学科二年課程（通信制）93.5%であった。
- 看護学科は学科開設後、初めての卒業生を輩出したが、合格率は全国平均を上回る結果となった。

5. 学生支援

評価項目	4: 適切	3: ほぼ適切	2: やや不適切	1: 不適切
就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	④	3	2	1
退学率の低減が図られているか	4	③	2	1
学生相談に関する体制を整備しているか	④	3	2	1
留学生に対する相談体制を整備しているか	4	③	2	1
学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	4	③	2	1
学生の健康管理を行う体制を整備しているか	④	3	2	1
学生寮の設置などの生活環境支援体制を整備しているか	4	③	2	1
課外活動に対する支援体制を整備しているか	4	③	2	1
保護者との連携体制を構築しているか	④	3	2	1
卒業生への支援体制を整備しているか	4	③	2	1
産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	4	③	2	1
社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	4	③	2	1

① 課 題

- ・退学者は前年度と比較して、全体数は減少したが、一部の学科では増加となった。
- ・留学生に対しての支援体制が整備されていない。
- ・卒業生の卒業後のフォロー体制が確立されていない。

② 今後の改善方策

- ・退学者の退学理由を分析し、退学者減少の取り組みを行う必要がある。
- ・留学生受け入れ態勢を整備していく必要がある。

③ 特記事項

- ・保護者会の実施（看護学科、リハビリテーション科）
- ・履歴書添削、模擬面接の実施
- ・求人票検索システム JOBnavi の運営

6. 教育環境

評価項目	4: 適切 3: ほぼ適切 2: やや不適切 1: 不適切			
教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	④	3	2	1
学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	④	3	2	1
防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	4	③	2	1
学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	4	③	2	1

① 課 題

- ・設備が老朽化しており、定期的なメンテナンスが必要になっている。
- ・避難訓練を実施できていないので、実施していく必要がある。
- ・新型コロナ発生以降、海外研修が実施できていない。

② 今後の改善方策

- ・年間の建物修繕計画にもとづいて修繕を実施する。
- ・海外研修実施に向けて準備を進める。

③ 特記事項

- ・学内ポータルサイトに掲載している危機管理マニュアルの内容の見直しを行った。

7. 学生の募集と受け入れ

評価項目	4: 適切 3: ほぼ適切 2: やや不適切 1: 不適切			
高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	4	③	2	1
学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか	4	③	2	1
入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	④	3	2	1
入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	4	③	2	1
経費内容に対応し、学納金を算定しているか	④	3	2	1
入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱いを行っているか	④	3	2	1

① 課 題

- ・全学科で入学者数が減少し、定員を充足することができなかった。
- ・入学試験の結果を入学後、個々の学生に指導できていない。

② 今後の改善方策

- ・年間を通して高校訪問を行い、学校の認知度を上げていく。
- ・入試内容を見直し、受験生が受験しやすい入試内容に変えていく。
- ・東洋医療総合学科2部においては、専門実践教育訓練給付金の申請の条件を満たしたため、講座指定に向けて申請をする。

③ 特記事項

- ・入試 Web 出願システムを導入した。
- ・年度途中より特待生選抜入試（高校生、大学・専門学校、社会人）を導入した。

8. 財 務

評価項目	4: 適切 3: ほぼ適切 2: やや不適切 1: 不適切			
学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	4	③	2	1
学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	4	③	2	1
教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	④	3	2	1
予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	④	3	2	1
私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	④	3	2	1
私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	4	3	②	1

① 課 題

- ・ 入学者の減少により、学納金収入が減少している。
- ・ 大規模修繕の予算が確保できていない。
- ・ 財務状況を公開できていない。

② 今後の改善方策

- ・ 財務状況の公開に取り組む必要がある。
- ・ 授業料収入の減少により、徹底したコスト管理を行っていく必要がある。
- ・ 将来的な建物大規模修繕に向けて予算確保していく必要がある。
- ・ 入学定員確保に向けて新たなアクションプランを計画的に実行していく必要がある。
- ・ 新入生退学防止策を立案していく必要がある。
- ・ 収入面では寄付金を拡充し、資金調達していく。

③ 特記事項

- ・ 特になし

9. 法令等の遵守

評価項目	4: 適切 3: ほぼ適切 2: やや不適切 1: 不適切			
法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	④	3	2	1
学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	④	3	2	1
自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	4	3	②	1
自己評価結果を公表しているか	4	3	②	1
学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	4	3	2	①
学校関係者評価結果を公表しているか	4	3	2	①
教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	4	③	2	1

① 課 題

- ・ 諸規程を定めているが更新されていない。
- ・ 自己評価、学校関係者評価の実施がなされていない。

② 今後の改善方策

- ・ 規程を定期的に見直ししていく必要がある。
- ・ 自己評価、学校関係者評価の実施体制を整え、取り組んでいく必要がある。

③ 特記事項

- ・ 個人情報に関する規程を学内ポータルサイトに掲載して教職員に周知している。

10. 社会貢献・地域貢献

評価項目	4: 適切	3: ほぼ適切	2: やや不適切	1: 不適切
学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④	3	2	1
国際交流に取り組んでいるか	4	③	2	1
学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	4	③	2	1

① 課 題

- ・ 新型コロナ発生以降、海外研修を実施できていない。
- ・ 学校としてボランティア活動に関する窓口を設置していない。
- ・ 留学生対応の職員を設置できていない。

② 今後の改善方策

- ・ 留学生受け入れ体制を確立する必要がある。

③ 特記事項

- ・ 看護師再就職支援研修を実施した。
- ・ 東洋医学健康講座を開催した。
- ・ 認知症サポーター養成講座を開催した。
- ・ 学園祭で大森健康ファクトリーを開催した。
- ・ 外部への教室貸し出しを再開した。
- ・ 大田ユニバーサル駅伝へ参加した。
- ・ DX リスキリング研修事業を実施した。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

1. 変革期における学園組織改革の推進

1) 財務基盤改善のための組織改革と業務の見直し

(1) 学科再編（定員変更）や教育内容の見直し

→ 東京医療総合学科において、コース制設置に向けて行政と折衝を行ったが、コース制設置は難しいとの判断にいたり断念となった。

看護学科二年課程（通信制）においては、受験者の急激な減少により 2026 年度入学生より入学定員 280 名→150 名に変更した。

(2) システム導入による業務効率化

→ 2 月より試験的に勤怠管理システム ジョブカンを導入した。次年度からは本格的に導入することとなった。

(3) 組織改革による目標達成に向けた運営強化

→ 入学定員充足に向けて、法人広報会議を毎週実施することにより、目標に向けた施策状況を確認した。

(4) 全学体制での入学定員充足

→ 学生募集対策として、高校訪問を前年と比較して約 7 倍回ることができた。

また SNS を活用するとともに、ホームページを充実させることで受験生が関心を持てるような取り組みを行った。

新たに Web 出願システムの導入し、学生が受験しやすいようにした。

新たな入試区分として特待生制度を導入した結果、一定の成果を上げることができた。

(5) 全学体制での退学者の低減

→ 退学者は、看護学科では 1 名、リハビリテーション学科では 14 名、東洋医療総合学科 1 部では 4 名、東洋医療総合学科 2 部では 4 名、看護学科二年課程（通信制）では 4 名となり、全体としては前年より減少傾向となった。

(6) 全学体制での計画に基づく経費削減

→ 経費の申請、物品の購入は学校長・副校長による申請許可制とし、経費管理の体制をとったことで、全体の支出の状況を確認しながら経費削減することができた。

2) ガバナンス体制の強化

(1) 理事会・評議員会および法人本部の連携強化

→ 私立学校法の改正に対応し、理事及び評議員の定数変更を行った。

(2) コンプライアンスの遵守

(3) ハラスメントのない職場

→ 新入生オリエンテーションで学生に対して学校のハラスメント体制を説明することで、学生からのハラスメント相談に対して、学校としてしっかり対応した。

2. 学生の心理的安全性の確保

1) 教員の教育力（教授力）向上、教職員の対応力向上

→ 今年度は実施できなかったが、次年度は予算計上し実施する方向。

2) 学生支援体制の強化（学生相談、学修支援、経済的支援など）

→ 東洋医療総合学科においては、新たに企業奨学金制度を導入し、法人として11社より応募をいただいた。また、カウンセラーによる学生支援体制を強化した。

3) 災害、感染症等に対応できる体制構築

→ 「危機管理マニュアル」の内容を管理職会議で見直しを行い、学内ポータルサイトに掲載した。